

令和元（2019）年度

事業報告書



社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会

【総括報告】

一昨年、皆様からのご協力により募金として領収した共同募金の一般募金と歳末たすけあい募金および日本赤十字社会費について、不祥事故が発生しました。このことは、皆様からの信頼を著しく損なうことになり、これまで市民の立場に立って地域福祉活動を進めてきた取り組みそのものを根底から揺るがす事態となりました。このような事態を重く受け止め、当協議会は不祥事故の再発防止に真摯に取り組み、皆様からの信頼回復に努めるため、再発防止策の検討を行う組織として、「近江八幡市社会福祉協議会再発防止検討委員会」を設置し、再発防止のための効果的な対応策を「再発防止検討報告書」として取りまとめを行いました。

今後、役職員一人ひとりがこの再発防止策に基づく取り組みを進め、二度とこのような不祥事故を起こすことのないよう、また、一日も早く皆様からの信頼を回復できるよう努めていくものといたします。

令和元年度は、第2次地域福祉活動計画の3年目となる中間年で、地域で見守り見守られることが実感できるつながりのある近江八幡市をめざして、自治会単位の見守り支えあい活動や学区単位の課題共有と解決に向けての話し合いの場づくりや生活支援活動を推進しました。特に、近江八幡市より地域力強化推進事業の委託を受け、体制を強化することができ、困った時に助けてと言えて、困りごとを受け止めお互いに支えあいのできる、地域共生社会の実現に向けて地域に出向き、話し合いの場をつくりながら取り組みました。また、地域福祉リーダー養成研修「つながり未来塾」(5回連続講座)を開催し、13名が4回以上参加され、今後の支えあい活動の取り組みに主体的にかかわっていただけるものと期待しています。

令和元年度も、台風19号災害による大きな被害が出ており、市内からボランティアとして被災地に支援をされています。そうした、ボランティア同士のつながりづくりや、平常時型の災害ボランティアセンターの体制づくりにおいても、身近な地域の日頃からの取り組みが重要であり、災害ボランティアセンター運営連絡会議を新たに設け検討しました。

また、困りごとは市社協へと呼びかけ、心配ごと相談や身近な福祉の相談窓口、暮らしづらさを抱えた方の居場所づくり、生活に困っている方への食糧支援、判断能力の不十分な方への福祉サービスの利用援助など支援の必要な方に寄り添い支援を行いました。令和元年度より、生活困窮者自立支援事業に基づく、就労準備支援事業(市委託)を実施し、自立に向けて働く準備を寄り添い支援し、就労につなげました。

介護保険事業については、利用者数が増加した事業(訪問介護事業)、減少した事業(通所介護)と明暗が別れる結果となりました。しかし、障害福祉サービス事業については、地域ニーズに対応し、順調に利用者数を増やしています。

一昨年、経営あり方検討委員会において、近江八幡市社会福祉協議会のあるべき姿について(答申)いただいたとおり、今ある姿を直視し、地域住民に信頼される社協経営をめざして、地域福祉の推進という使命を果たすため、役職員が一丸となって地域に根差した取り組みの推進に努めました。


【事業別報告】

1. 排除と孤立をほっとかない思いやりの育つまちづくり

(1) お互いに支えあう風土づくり（広報啓発）

市民に対し社協活動や地域福祉への理解を深めるため、広報紙を発行するとともに、ホームページ等を通して啓発を行いました。

特に、お互いに支えあう福祉のまちづくりについての啓発を重点的に、広報等での情報発信を行い活動の見える化に取り組みました。また、社会福祉大会では、地域ぐるみの福祉活動について子ども食堂や生活支援グループに取り組む武佐学区の取り組みから、地域の状況に応じた福祉活動の推進について考える機会としました。

①広報紙「社協おうみはちまん」の発行	5月、7月、9月、11月、1月、3月
②ホームページ、フェイスブックによる情報発信	随時
③社会福祉大会 と き：令和元年10月5日（土） ところ：近江八幡市文化会館小ホール 内 容：表彰、シンポジウム テーマ わたしの気づきをみんなの気づきに～孤立の生まれないまちづくり～ 基調講演 「微助っ人」のまなざし～奥深さを味わうヒント～ 講師 中根真氏 龍谷大学短期大学部 こども教育学科 活動実践報告（コーディネーター：中根真氏） 丹波和夫氏 竹田百合子氏（永町見守り支え愛） 西川吉治氏 及川實枝子（大房見守り支え合い隊） 参加者：約200名	

(2) 福祉の学びの推進（福祉教育）

①学校や地域の福祉団体と連携した活動体験型福祉教育の推進

学校や地域で行われた福祉学習への支援、協力を行いました。学校の先生方への福祉教育の進め方についての講座を開催するとともに、ボランティアや地域の福祉施設や民生委員児童委員協議会等と連携し、地域ぐるみで福祉教育が推進できるようコーディネート意識して取り組みました。

地域共生社会の実現に向けて福祉教育は重要であり、身近な地域における福祉のまちづくりと福祉教育を一体的に行うことで、だれもが安心して暮らせる地域づくりにつながっていくため、地域ぐるみで体験や交流を交えた福祉教育のあり方を検討し取り組みをすすめています。

きます。

・学校への福祉教育支援

	小学校	中学校	高等学校	その他
令和元年度	4校12件	1校1件	1校2件	1件
平成30年度	4校9件	1校1件	1校2件	1件
平成29年度	4校11件	1校1件	1校1件	1件

・先生への福祉教育講座開催

視覚障がい者体験（見えないことってどんなこと？）3回実施

車いす体験 1回実施 高齢者疑似体験1回

②赤十字奉仕団による福祉学級の開催支援

日赤奉仕団の実施する各学区での子どもを対象にした福祉学級への助成

③出前講座（支援の必要な方への理解および支えあいの地域づくりを啓発）

見守り支えあえあいや、災害時にも生きる日頃の取り組みの必要性や、福祉課題の解決に向けた取り組み、だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくりについて、取り組み事例を交えて、啓発や取り組みの説明を行いました。

・支えあいの地域づくり等自治会単位への職員派遣70件（平成30年度56件）

・学区（地区）域で開催された研修等への協力51件（平成30年度38件）

・団体の研修等への協力 8件（平成30年度10件）

④子ども民生委員活動の取り組み支援

・安土学区民生委員児童委員協議会の取り組む子ども民生委員活動の

取り組み支援（安土中学校の作業所訪問⇒コロナウイルスの関係で中止、
安土小学校児童のデイサービスきらめきあづち訪問）

（3）ボランティア活動の推進（ボランティアセンター事業の推進）

〈評価と方向性〉

ボランティア活動者の高齢化が進むなか、令和元年度において、ボランティア活動でどんな課題があるのか現状を詳しく知るため、6つの分野別に懇談会を開催しました。そのなかで、地域の困りごとを抱えている人の掘り起こしができていないこと、手話や要約筆記など高度なスキルを必要とされる活動でなかなか仲間が増えないこと、免許返納で交通の不便が生じ、グループを解散せざるを得なかった等の課題が出されました。

令和元年度のボランティア交流会では「今ある活動を活かしてコラボしよう」をテーマに、ボランティア活動者が分野を超えてつながり、互いの活動を意味付け、捉えなおす機会としました。

また、ボランティアセンターに寄せられる相談には基礎疾患のある方や障がいのある方、体力に不安のある方の活動相談が全体の半数にのぼっています。地域における活動の中で、相手の気持ちに寄り添い、ケアし支え合う関係性を広げ、交流・参加・学びをさらに深めていけるよう、福祉ボランティア講座では「聴く」技術をロールプレイで体験しました。誰もが社会参加できる地域共生社会を目指し、出番づくりを支えるプラットフォームの役割がボランティアセンターに求められています。

下半期に退職後男性講座『キラリ輝く男塾』を開催し、39名の参加がありました。退職後の男性が地域に出て新たな人間関係を再構築し、地域の課題を知り仲間と共に地域で出来ることを考えていくきっかけづくりの第一歩になりました。

これらの事業で見てきたボランティア活動や地域課題を集約し、令和2年度のボランティアセンター運営委員会の開催につなげていきます。

①ボランティア活動に関する活動・相談支援

ボランティア活動等に関する情報提供や相談等を行い、活動の支援を行いました。

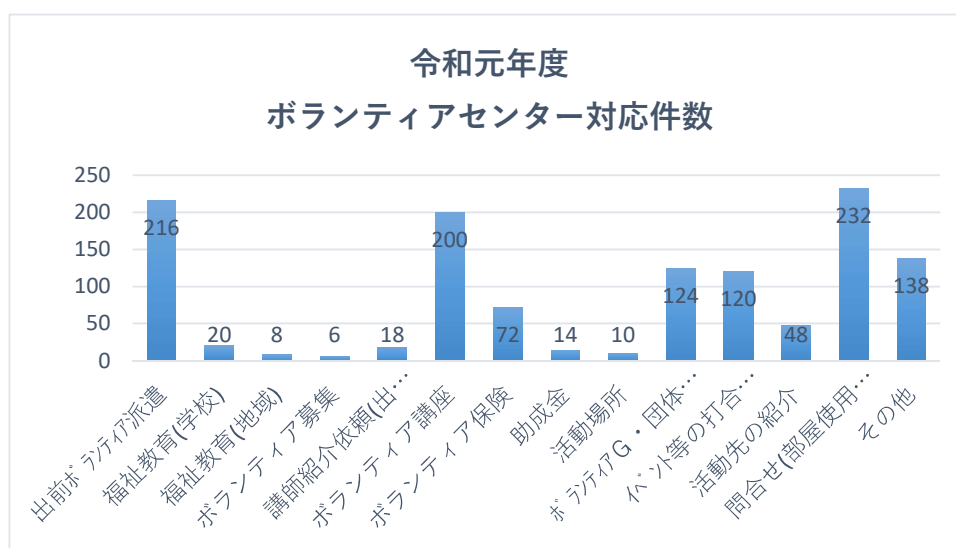
	令和元年度	平成30年度	平成29年度
登録受付	個人 20名 団体 132件	個人 50名 団体 132件	個人 135名 団体 110件
相談受付・情報提供	1,226件	2,068件	1,592件

※個人登録については、実働者数で整理をしました。

<相談の内訳>

相談内容	出前ボランティア派遣	福祉教育(学校)	福祉教育(地域)	ボランティア募集	講師紹介依頼(出前ボランティア以外)	ボランティア講座	ボランティア保険
件数	216	20	8	6	18	200	72

助成金	活動場所	ボランティアG・団体の運営	イベント等の打合せ・協力	活動先の紹介	問合せ(部屋使用や講座イベント)	その他	総計
14	10	124	120	48	232	138	1226



②ボランティア同士の交流

- ・ボランティア活動者同士の交流『ボランティア交流会』の開催



開催日：5月20日(月) ひまわり館ホール
内容：テーマ「今ある活動を活かしてコラボしよう」
参加：54団体 92名

③ボランティア連絡協議会の支援

ボランティア活動の推進のため、安土地区で活動されている安土町ボランティア連絡協議会活動を支援しました。

④福祉ボランティア講座の開催

◇テーマ『ボランティアってなんだろう？』 2月12日開催 20名参加
少子高齢化に伴い地域で支え合う必要性の認識が社会的に広がる中で、これからボランティアをはじめたい人に、「地域にはどんなボランティア活動が求められているのか」「ボランティアとは何か？」をテーマに、活動者としての態度や心得および福祉ボランティアに共通する「傾聴」をロールプレイ形式で学びました。

⑤分野別ボランティア懇談会の開催

6つの分野別にボランティア活動で感じている地域課題や活動の課題を共有し、普段の活動状況を交流しました。

開催日	内容	参加者
1月17日	高齢者分野	20人
1月24日	障がい者分野	16人
1月29日	地域活動分野	22人
1月31日	環境活動分野	18人
2月4日	演芸・レク分野	18人



ボランティア活動者それぞれの細かな思いや活動から見えてくる地域課題を掘り下げて交流することが出来ました。出された意見を令和2年度のボランティアセンター運営委員会で協議を図り、第3次地域福祉活動計画に反映させていきます。

⑥地域活動相談の実施

地域コーディネーターの設置

退職前後の男性が地域活動をはじめのきっかけの相談窓口として地域コーディネーターによる相談活動を実施しました。

◇地域活動相談

と き：第2第4月曜日 ところ：ひまわり館ボランティアセンター

内 容：退職男性を対象とした地域活動相談

開催日：27日

相談件数：4件（平成30年度 4件）

◇地域コーディネーター会議の開催 4回開催

⑦くらし応援サポーターの取り組み

くらし応援サポーターうさぎのみみ（傾聴活動）

サポーター登録20名、毎月平均10名が利用

定例会を開催

福祉ボランティア講座であらたに1名の傾聴ボランティアを迎え入れました。

ボランティア活動者自身が活動の運営を担えるようボランティアセンターでサポートを引き続き行っていきます。

⑧ボランティア保険加入の窓口

ボランティア保険の手続き

ボランティア活動保険加入の手続き窓口として、事務を行いました。

	活動保険	行事用保険	福祉総合保障	送迎サービス保障
令和元年度	2, 505名	113件	4団体	6団体
平成30年度	2, 554名	127件	7団体	4団体

2. 共感し、共有しあえる居場所づくり

（1）地域の居場所づくりの推進

①自治会単位のふれあいサロン活動の支援

住民同士のつながりを深め、支えあう地域づくりのため、各地域でふれあいサロンが開催され、閉じこもりがちな人の居場所づくりや地域における見守り活動として有効な活動として根付いてきています。今後、更に、身近な地域における交流の場と機会が増え、内容が充実するよう、各学区（地区）社協と連携し、推進していく必要があります。また、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しまれるワンコインカフェも地域の中で、取り組みが広がりつつあり、見守りや地域の連携強化に効果的な取り組みとして取り組みを推進していく必要があります。

令和元年度ふれあいサロン実施回数

学区	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土・老蘇	合計
個所数	20	9	10	18	21	13	6	7	35	139
回数	82	62	138	265	319	374	166	62	442	1,910

《平成30年度 148 個所 1,980 回》

②学区単位のワンコインカフェなどの居場所づくり

地域のつながりづくりの取り組みとして、広域の居場所づくりが広がっています。小学校単位の居場所づくりを通じて、自治会単位にも取り組みが広がっており、身近な地域で、気軽に立ち寄れる、また、困ったときに相談できるような居場所づくりを推進していきます。

継続 八幡学区（ワンコインカフェほっこり）、島学区（ワンコインカフェ紅芭）、桐原学区（金よう茶屋）金田学区（ふれあい喫茶）、武佐学区（すきどりカフェ等）

安土地区（サロン活動金曜会）、安土学区（ふくふく）、老蘇学区（おいそや）馬淵学区（まぶちふれあいカフェ）

新規 岡山学区（カフェおたがいさん）

③子どもの居場所づくり（子ども食堂・学びの広場等）の活動支援

・子ども食堂連絡会の開催

市内8団体9か所に広がった子ども食堂の代表者で、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を休止している団体が多い中、小規模の子ども食堂では、子どもたちの支援が必要なため、再開したり、お弁当を届ける取り組みを実施されていたこともあり、何かできることはないか情報交換を行いました。

開催日	内容	人数
3/13	情報共有 休校中の子どもたちの現状と子ども食堂の取り組み 子ども食堂としてできることは何か 参加者：子ども食堂9名、行政2、県社協1名、市社協3名	15名

・子ども食堂への活動支援

子ども食堂の実施体制づくりや運営支援を行いました。子ども食堂への関心が高まり、お米や食糧の提供をいただくことが増えました。

8団体9箇所

継続 むさっ子食堂（武佐学区） はちまん子ども食堂（八幡学区）

きりっ子食堂（桐原東小・桐原小） スエばあちゃん食堂（武佐学区）

みんなの食堂おほりばた（八幡学区） ほのちゃん食堂（金田学区）

かんちゃんの小さな家（安土学区）

新規 蜜柑の木（全域）

・おにぎりプロジェクトの実施

新型コロナウイルス感染症の影響で休校中の子どもたちに、子ども食堂を通じて、お弁当を届ける取り組みを実施しました。

第1回：3月26日 37食

(第2回：4月2日 40食、第3回：4月7日 52食)

協力：市内子ども食堂、市内子ども支援団体、ホテルニューオウミ、フードバンクびわ湖

④子育て支援事業つどいの広場事業の実施（市委託事業）

就学前の子どもとその保護者が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で、情報交換や交流を図る場として「つどいの広場事業」を開催しました。事業を通して、子育てに不安がある保護者への相談援助活動や地域の子育て支援に関する情報提供を行いました。また、昼食時や料理教室において食育についてのお話しの場を設けました。新に、少しでもママがほっこり自分の時間を持てるように、コーヒーをゆっくり飲んでもらおうと、ママカフェを実施しました。今後、より多くの方に参加していただけるよう周知と内容の工夫をしていく必要があります。

	令和元年度	H30年度	H29年度
開催日数	133日	148日	141日
延べ参加者	2,044名	2,880名	2,652名

開催日：毎週火・水・金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

新型コロナウイルス感染症の影響で、3月は休止しました。

ところ：あいあいの家（安土町上豊浦元工場）

内容：お話広場（毎月第1火曜日） ティタイム&お誕生会（毎月第3水曜日）

ママ教室 遊びの広場 リサイクル広場 ママカフェ

⑧レクリエーション用品の貸出

ふれあいサロン活動のなどのためのレクリエーション備品の貸し出しを行い、地域活動の支援を行いました。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
件数	64件	151件	123件

（2）地域で出番づくり

①子どもによる訪問活動の推進

- ・安土学区民生委員児童委員協議会における「子ども民生委員活動」（小学生のグループホーム訪問活動・中学生の障がい者支援作業所）を市社協で支援。

3. 見守りと支えあいのつながりのあるまちづくり

～自分のまちを信頼して「助けて」と言える地域～

〈評価と方向性〉

平成29年10月に策定した地域福祉活動計画推進3か年アクションプラン（生活支援活動強化方針）の2年目にあたり、①自治会単位における困りごとの早期発見、②学区単位にお

ける協議協働できるネットワーク構築のための話し合いの場づくり、③個別の困りごとに対応できる活動の実践に引き続き取り組みました。

令和元年 10 月から「近江八幡市地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業地域力強化推進事業（以下地域力強化推進事業）」の委託を受け、地域福祉推進グループの人員の強化をはかり、地域住民における福祉課題早期発見の仕組みづくりと気づいた課題の解決に向けた協議の場づくり、専門職との連携による問題解決機能の充実により、孤立を防ぎ、互いに見守り見守られ、だれもが安心して暮らすことのできるつながりのある地域づくりを目標に取り組みを進めました。

令和 2 年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響で集まることが難しい中、日ごろの活動から課題を抱えておられる方にどのようにつながっていくのか、創意工夫しながら地域づくりを展開していく段階に入ります。令和 3 年度策定予定の第 3 次地域福祉活動計画（令和 4 年度～）に向けて地域のニーズを集約しながら、令和 2 年 10 月に第 2 次 1.5 か年アクションプランを策定し、当面の地域福祉活動の方向性を示します。

（1）自治会単位の福祉のネットワークづくり

①福祉協力員活動の支援

福祉協力員は、学区（地区）社協会長が自治会単位の設置をお願いし、委嘱するものです。ふれあいサロン活動や見守り活動など、身近な地域における福祉活動の必要性が高まっています。今後、福祉協力員の役割と活動内容が地域に浸透していくように、学区（地区）社協および地域福祉推進員と連携し、推進していく必要があります。

◇学区（地区）社協別福祉協力員数 <<合計 300 名>>

学区	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土・老蘇
人数	58	9	29	31	31	25	26	28	63

また、福祉協力員活動の支援を目的に研修会を開催しました各学区（地区）社協と連携し研修会を開催しました。

◇福祉協力員研修（学区域）

学区の状況に応じて、研修会などで取り組みに関する周知を行いました。

学区名		研修名（対象者）
八幡学区	5 月 25 日	ふれあいのまちづくり推進協議会総会研修（福祉協力員）
島学区	4 月 20 日	福祉協力員研修会（福祉協力員）
岡山学区	5 月 28 日	福祉協力員研修会（福祉協力員・民生委員・見守り代表）
金田学区	6 月 8 日	ふれあいのまちづくり学習会（福祉協力員・民生委員・自治会長、ふれあいサロン指導者）
桐原学区	5 月 25 日	自治会長・民生委員児童委員・福祉協力員合同会議 （自治会長・福祉協力員・民生委員）
馬淵学区	6 月 14 日	福祉協力員研修会（福祉協力員）
武佐学区	6 月 27 日	見守り支えあい推進会議において研修（自治会長、民生委員、福祉協力員、見守り支えあい推進委員）
安土地区	4 月 23 日	福祉交流会（福祉協力員・民生委員）

②見守り支えあい活動の推進

身近な地域において、福祉課題の共有と課題の解決に向けた取り組みができるしくみづくりとして、自治会単位の「見守り支えあい活動」を推進しました。

見守り支えあい活動の推進を目的に、学区（地区）社協と協働で、学区ごとの状況に応じた推進体制づくりとして「見守り支えあい推進委員会」、および学区単位の話し合いの場づくりとして「見守り支えあい推進会議（学区小地域ケア会議）」、自治会に出向いての福祉のネットワークづくりに向けた話し合いの場づくりを行いました。地域での会議の開催や情報提供などの支援により新たな取り組みが始まるなど成果が見えています。自治会単位の見守り支えあいのネットワークづくりは、新に15自治会で立ち上がりました。（40自治会⇒55自治会） ・令和元年度 自治会館等に出向いた回数70回

③見守り支えあい活動マップの作成

見守り支えあい推進会議などで把握した、自治会単位の見守り支えあい活動・居場所づくり、広域の居場所づくり、学区単位的生活支援活動の取り組みについて一覧表を作成し、3月に全戸配布しました。A3両面30,000部発行

④福祉のネットワークづくりに向けた講演会の開催

○「おたがいさまの地域づくり講演会」の開催

令和2年2月5日（水）住民流福祉総合研究所所長木原孝久氏

孤立を防ぎお互いに見守り見守られる地域づくりを目指し、住民目線の支え合いを進めるコツを学びました。

○「白王町支えあいマップづくり」令和2年2月6日（木）

住民流福祉総合研究所所長木原孝久氏と一緒に地域の支えあいをマップ上に印をつけながら見える化し、どのような地域づくりが必要なのかを話し合う場づくりを行いました。

⑤生活支援送迎車両（ささえあい号）貸出事業の実施

市社協所有の車両を、生活支援を目的に自治会等の団体に貸出を実施。

令和 元年度実績 38件 利用者数：計95名

（平成30年度実績 13件 利用者数：計43名）

（2）学区（地区）社協を主体とした地域福祉活動の推進

①学区（地区）社会福祉協議会会長会の開催

学区（地区）社協間の情報交換や連携を行っていくため、学区（地区）社協会長会を開催しました。

開催日	協議事項
-----	------

5月30日	会長会会則の制定、市社協理事および評議員の推薦、一般会費の基準、市社協事業計画、共同募金運動・助成金、災害ボラセン運営連協、各学区（地区）の活動状況・地域福祉課題
12月2日	日赤活動費・共同募金運動・市社協会費の状況、市社協地域福祉活動の状況、会長会の取り組み、おたがいさまの地域づくり講演会、学区（地区）社協へのヒアリング

② 地域福祉推進員活動の支援

地域福祉推進員は、各学区（地区）社協に1～2名設置し、学区（地区）社協会長とともに学区（地区）社協事業の企画や運営を行っていただくことを目的に設置するものです。

学区ごとの、福祉活動の推進において、地域福祉推進員と情報共有を図りながら、取り組みを進めました。今後も、地域の福祉課題に対応した学区社協活動の強化を図るため地域福祉推進員の情報交換および情報共有のための会議の開催が必要です。

地域福祉推進員連絡会議

開催日	協議事項
5月8日	市社協および学区（地区）社協の今年度の取り組み、福祉協力員活動、見守り支えあいネットワークの推進
12月17日	市社協の地域福祉活動の推進状況、各学区（地区）の地域福祉活動の推進状況、次年度の取り組み

③ 学区ごとの生活支援の仕組みづくり

成果：

- ・岡山学区で「くらし応援団おたがいさん岡山」発足
- ・武佐学区で「生活支援グループさぼーとむさの輪」個別の移動支援開始
- ・島学区で企業と連携した買い物支援の取り組み継続（長寿福祉課支援）および住民参加による生活支援活動に向けた研修会などを開催。
- ・八幡学区で居場所への移動支援継続
- ・「(仮称)安土学区お助け隊立ち上げ準備会」の発足、サポーター募集および研修会の実施

④ 地域福祉リーダー養成研修「近江八幡つながり未来塾 2019」

人口減少が進み、絆やつながりが薄くなった社会において、地域のつながりを取り戻すために多様な人たちが主役となり福祉のまちづくりに関わり実践に必要な専門性と知識・スキルを高めることを目的に、令和元年度より地域福祉リーダー養成研修『近江八幡つながり未来塾』を開催しました。受講者のうち希望者に地域活動の体験を実施しました。

13名（4回以上受講された方）に修了証をお渡ししました。今後、受講いただいた方と連携し、地域力強化に向けて取り組みます。

開催日	内容	参加者
5月27日	災害に強い地域づくり	71人

7月29日	「私」からはじめるつながりづくり	53人
10月30日	住み慣れた近江八幡で安心して暮らし続けるために	37人
11月18日	気になる子どもたちへの気づきとかかわり	38人
2月3日	介護はじめの一步	45人

⑤学区（地区）社会福祉協議会との連携による地域福祉活動の推進

◇八幡学区

取り組み項目	内容
目標	①福祉委員会の立ち上げ支援および活動支援 ②学区社協活動の支援
取り組み	①福祉委員会の立ち上げ支援、継続支援 ・学区社協理事会、学区民児協定例会での研修実施 ・見守り支えあい推進組織新規立ち上げ（13区） ・見守り支えあい推進組織継続支援（5区・12区・16区・17区） ②生活支援の取り組み ・学区ワンコインカフェへの移動支援継続
次年度に向けて	・各自治会における福祉委員会（見守り支えあい推進組織）の基盤強化 ・学区福祉委員会活動推進会議の推進

◇島学区

取り組み項目	内容
目標	①災害時にも生きる日頃の見守り支えあい活動の推進 ②既に取り組まれている買い物支援を含む生活支援活動の検討
取り組み	①災害時にも生きる日頃の見守りささえあい活動の推進 ・見守り支えあい推進委員会の実施（4回）新 ・見守り支えあいマップづくり研修会1回 ・災害ボランティアセンターサテライト訓練の実施 ②生活支援活動の必要性について学び話しあう ・学区社協研修において生活支援グループの視察 ・ふくし見守り支えあい懇談会の開催1回
次年度に向けて	・住民参加による学区生活支援グループの発足 ・見守り支えあい推進組織の新規立ち上げの推進

◇岡山学区

取り組み項目	内容
目標	①早期発見につながる自治会単位の見守り支えあい活動支援 ②学区の困りごと把握につながる取り組みの推進
取り組み	①「見守り支えあい活動」の啓発 ・見守り支えあい推進委員会の開催（1回） ・見守り支えあい推進会議の開催（1回） ・見守り支えあい推進組織新規立ち上げ（大房町） ②学区の困りごと把握と生活支援活動に向けての取り組み開始

	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらし応援団おたがいさん岡山」発足 ・視察研修実施
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらし応援団おたがいさん岡山」における生活支援の取り組み推進 ・見守り支えあい推進組織の立ち上げ

◇桐原学区

取り組み項目	内容
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自治会単位の見守り支えあい活動の推進 ②学区福祉課題の共有と解決に向けた取り組みの推進 ③見守り支えあいネットワークに関する学習会の開催
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り支えあい活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会長、民生委員、福祉協力員三者合同会議開催（1回） ・見守り支えあい推進組織新規立ち上げ（中小森町、日吉野東） ・消費者被害防止プロジェクトへの強力（見守り活動と連携） ② 課題共有の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・桐原学区三者合同会議フォローアップ会議（1回）
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・民生委員児童委員に見守り支えあい活動推進の組織的合意を得る ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉協力員を交えた自治会単位の定期的な話し合いの場づくりの推進

◇北里学区

取り組み項目	内容
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自治会単位の見守り支えあい活動の継続支援 ②学区の福祉課題の共有と解決に向けた取り組みの推進
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り支えあい活動の立ち上げ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進会議の開催（1回） ② 地域ぐるみの福祉力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉懇話会（支えあいマップづくり） ・福祉講習会の開催支援（障がい者理解）
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・学区単位の話し合いの場づくり（小学校区単位の福祉課題） ・福祉協力員への学びの強化 ・自治会単位の見守り支えあい推進組織の推進

◇金田学区

取り組み項目	内容
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自治会単位の見守り支えあい活動の立ち上げに向けた取り組み ②学区の福祉課題の解決に向けた協議の場づくりを実施
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り支えあい活動の啓発、課題解決に向けた協議の場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい学習会の開催（1回） ・見守り支えあい推進組織立ち上げ（長田、金剛寺、鷹飼、上田） ・消費者被害防止プロジェクトへの強力（見守り活動と連携） ・学区防災推進チームと連携した啓発 <ul style="list-style-type: none"> 防災研修会における啓発、避難訓練における啓発（3カ所） 災害ボランティアセンターサテライト訓練の実施 ②課題共有のできる場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進委員会（4回）新

次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進組織の推進 ・孤立死防止に向けた取り組みの推進
---------	--

◇馬淵学区

取り組み項目	内 容
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自治会単位の見守り支えあい活動の推進 ②学区内の課題把握と課題対応に向けて協議の強化
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り支えあい活動の啓発・立ち上げ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあいのまち推進会議の開催（1回） ・見守り支えあい推進組織新規立ち上げ（岩倉） ② 地域福祉活動計画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進部会の開催（3回） ・まち協と連携した避難所運営訓練の実施 ・福祉フェスティバルの開催
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進部会における自治会単位の活動と連携した生活支援活動の検討 ・災害ボランティアセンターサテライト訓練の実施

◇武佐学区

取り組み項目	内 容
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自治会単位の見守り支えあい活動の推進 ②課題把握の方法の充実 ③学区社協活動の協議活動の充実
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り支えあい活動の啓発・立ち上げ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進会議の開催（2回） ② 学区域の生活支援活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進委員会の開催（4回） ・生活支援グループさぼーとむさの輪 個別移動支援開始 ③ 地域の福祉課題に対応した学区社協活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進委員会（計画推進会議）の開催 ・災害ボランティアセンターサテライト訓練の実施
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位の見守り支えあい推進組織の立ち上げ支援 ・学区域の福祉課題の共有とネットワークの連携強化

◇安土地区（安土学区・老蘇学区）

取り組み項目	内 容
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①身近な地域の見守り支えあい活動推進を継続すること ②学区ごとの生活支援グループの組織化見守り支えあい活動の未実施地区への働きかけと実施地区の継続支援
取り組み・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 見守り支えあい活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り支えあい推進会議の開催（2回） ・見守り支えあい推進組織新規立ち上げ（香庄、下豊浦安土、芦刈、常楽寺上横） ・消費者被害防止プロジェクトへの強力（見守り活動と連携） ② 学区域生活支援活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・仮称安土学区お助け隊準備会発足 サポーター募集、研修会開催、発足準備

次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動と福祉の専門職とのネットワークづくり ・学区の生活支援活動の実施および自治会単位の活動との連携
---------	---

⑥地域福祉活動に関する相談件数

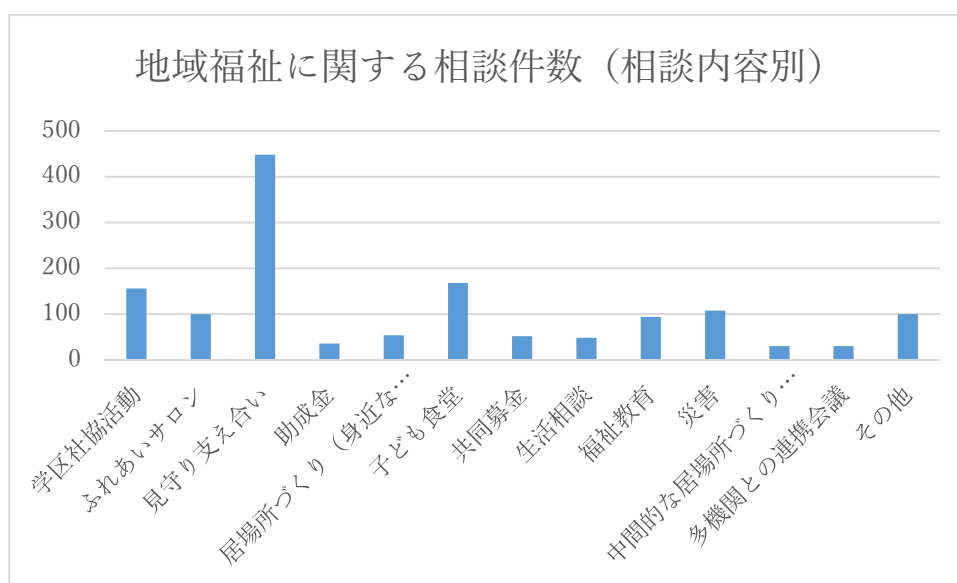
地域担当職員を配置し、地域に出向き、身近な地域での課題の早期発見の仕組みづくりの啓発や、課題解決に向けた取り組みの推進をしてきたことで、令和元年度は1,424件の相談がありました。見守りマップ作りの推進など制度だけでは対応できない福祉の困りごとに地域の自治基盤や民生委員児童委員、ボランティアや福祉団体との連携によるセーフティネットづくりに取り組みました。

〈地域福祉活動に関する相談：相談内容の内訳〉

相談内容	学区社協活動	ふれあいサロン	見守り支え合い	助成金	居場所づくり (身近な地域)	子ども食堂	共同募金
相談件数	156	100	448	36	54	168	52

生活相談	福祉教育	災害	中間的な居場所 づくり(市域)	他機関との 連携会議	その他	総計
48	94	108	30	30	100	1,424

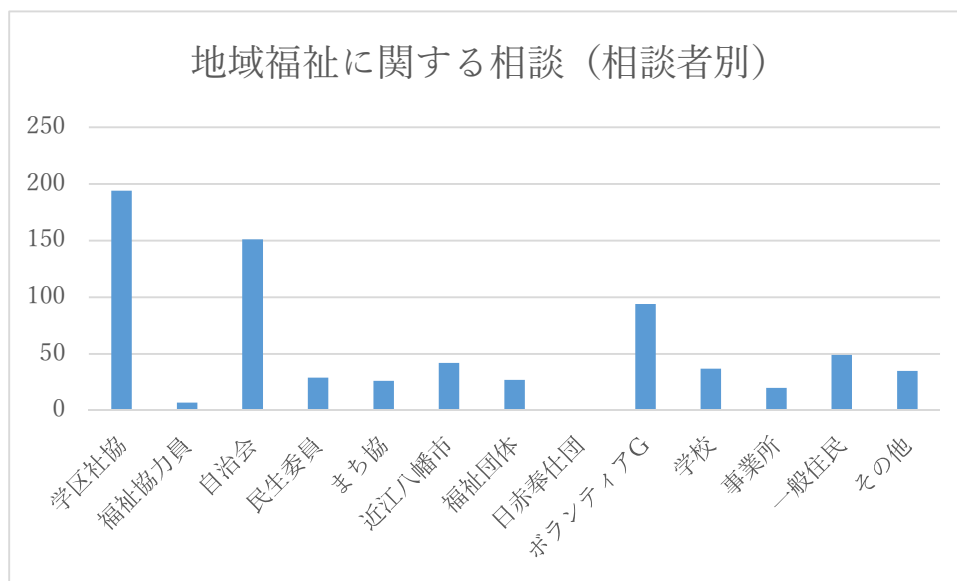
《平成30年度 1,894件》



〈地域福祉活動に関する相談：相談者の内訳〉

相談者	学区社協	福祉協力員	自治会	民生委員	まち協	近江八幡市	福祉団体
相談件数	388	14	302	58	52	84	54

日赤奉仕団	ボランティアG	学校	事業所	一般住民	その他	総計
0	188	74	40	98	72	1,424



（3）福祉関係団体・企業等との連携・協働

① 市内福祉関係団体との連携

② 福祉団体への助成

福祉団体等に対し助成を行いました。また、寄付者の意向に基づいた子ども福祉活動助成を行いました。

- ・学区(地区)社会福祉協議会に対し助成
- ・団体助成(福祉関係団体助成 10 団体に助成)
- ・子ども福祉活動助成(7 団体に助成)
- ・広域居場所づくり助成(9 団体に助成)
- ・子ども食堂助成(5 団体に助成)

③ 近江八幡市民生委員児童委員協議会事務局

③ 近江八幡市赤十字奉仕団事務局

④ 近江八幡保護区保護司会事務局

⑤ 見守りあい協定の締結

- ・滋賀中央信用金庫様との見守り協定

（4）災害時支援の仕組みづくり

〈評価と方向性〉

令和元年度においても、台風19号による風水害が発生し、長野県等多くのところで災害ボランティアセンターが立ち上がりました。近江八幡市においても、災害時において、困りごとの把握とボランティアによる必要な支援が届けられるよう、新たに

災害ボランティアセンター運営連絡会議を立ち上げ話し合いをスタートし、合わせて、災害ボランティアセンターの運営訓練を行いました。

また、台風 19 号災害の支援に向いた市内のボランティア対象に災害ボランティア情報交換会を実施し、現地の状況やボランティアに向いての経験を共有しました。

① 災害ボランティアセンター運営連絡協議会

今年度より災害ボランティアセンター運営連絡協議会を立ち上げ、災害時のボランティア活動と地域の平時の支え合いから災害時の切れ目のない支援につなげるための仕組みづくり、要援護者の困りごとのキャッチについて話し合いを行いました。災害ボランティアの登録者を募り、11 名登録いただき、災害ボランティアセンター設置運営訓練等の呼びかけをしました。

開催日	協議事項
5月27日	公開講座『災害に強い地域づくり～西日本豪雨災害等の災害からその課題を探る』（つながり未来塾と合同開催）参加者 71 名
6月10日	第 1 回災害ボランティアセンター運営連絡協議会 出席者：21 名 近江八幡市における災害ボランティアセンターのあり方を考える
7月9日	第 2 回災害ボランティアセンター運営連絡協議会 出席者：21 名 出席者 17 名
8月25日	島学区中之庄町コミュニティマッチング訓練 参加者 20 名
10月16日	第 3 回災害ボランティアセンター運営連絡協議会 出席者：20 名
12月18日	第 4 回災害ボランティアセンター運営連絡協議会 出席者：20 名

②災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

近江八幡市が実施する総合防災訓練に参加し、ボランティア約 30 名とともに災害ボランティアセンター設置および運営訓練を実施しました。島学区、武佐学区と協働で災害ボランティアセンターサテライトセンター運営訓練を実施しました。

開催日	内容
8月25日（日）	災害ボランティアセンター運営訓練の実施 ・本部訓練実施 ボランティアの受付、活動紹介、サテライトの設置、送迎 ・島サテライト設置運営訓練の実施 ニーズ把握ボランティアの受け入れ、活動紹介、活動体験 ・武佐サテライト設置運営訓練の実施 ボランティア受け入れ
10月13日（日）	金田サテライト設置運営訓練 ボランティア受付、活動紹介、活動体験



島サテライト運営訓練



武佐サテライト運営訓練



金田サテライト運営訓練

③災害ボランティア情報交換会

12月6日 総合福祉センター ひまわり館 16名参加

台風19号災害で災害ボランティア活動に出向かれた市民の方の交流会を行いました。



4. 市社会福祉協議会の基盤強化

～多職種がいる社協の力を地域で発揮する～

(1) 総合相談機能の強化

〈評価と方向性〉

食糧支援、地域の方々の身近な相談窓口として、総合相談事業、地域福祉権利擁護事業に取り組みました。平成30年度より、心ごと相談事業の開所日数を増やしたことで、市社協への相談も増えています。

また、令和元年度新たに、生活困窮者自立支援法に基づく、就労準備支援事業の委託を受け、引きこもりがちの方の就労支援を行いました。3月25日から新型コロナウイルス感染症の影響により特例貸し付けの受付が始まり、相談者増加への対応が急務となっています。

① 総合相談事業

住民の身近な相談所として、また、福祉課題の把握の窓口として、心配ごと相談を実施しました。心配ごと相談は、開催日を増やし、本所で偶数日(平日)に開催しました。今後はこれまで以上に相談していただきやすい相談窓口となるよう、地域の方々に安心して相談していただけるよう、周知を行っていきます。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
心配ごと相談(本所)	48件(117日)	50件(115日)	22件(45日)

(支所)	—	—	3件(10日)
弁護士相談	—	—	65件(12日)
司法書士相談	—	—	6件(2日)

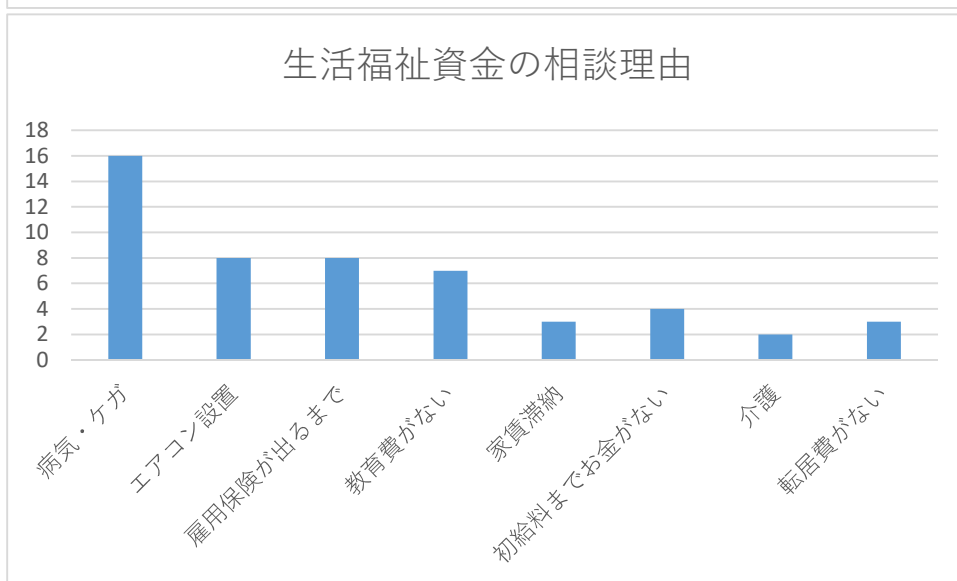
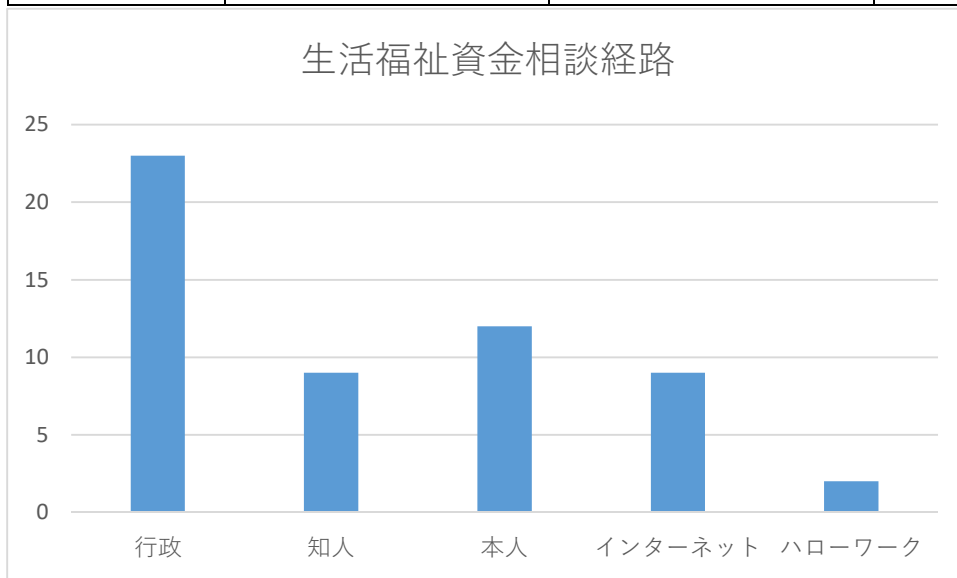
②生活福祉資金貸付

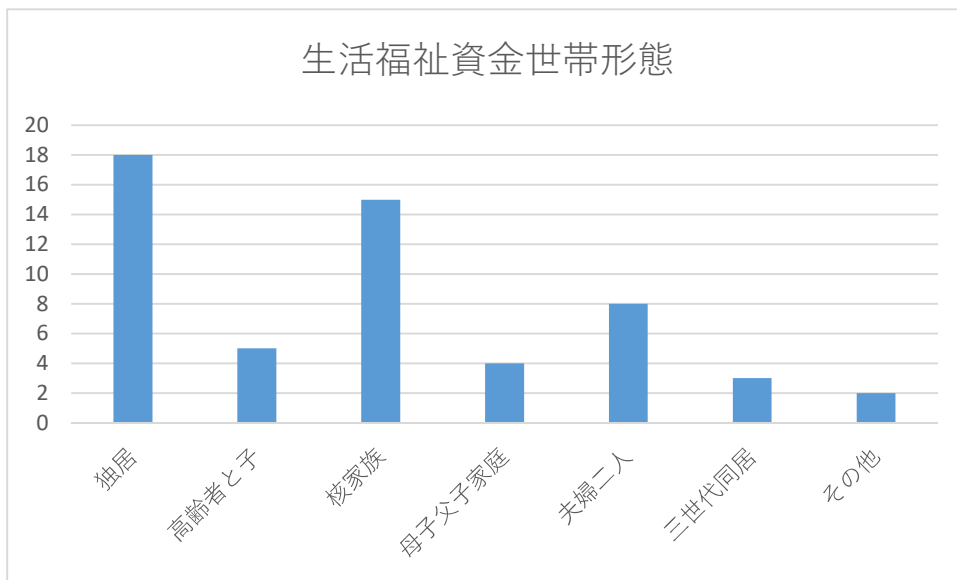
・生活福祉資金の貸付業務

滋賀県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業の相談窓口として、相談支援活動を通して貸付事業を実施しました。

貸付手続きだけでなく、近江八幡市の困窮者自立相談支援事業と連携し、申し込み相談の内容からその世帯の抱えている問題点を把握し、他の福祉サービスに繋げることができました。3月25日から受付を開始した、新型コロナウイルス感染症の影響を受けての特例貸付の相談や申し込みの増加が予測されます。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
相談件数	55件	42件	28件
新規貸付件数	39件(コロナ貸付4件)	24件	8件





・小口生活資金貸付事業

生活保護適用までの方やすでに生活保護を受給されている方を対象に近江八幡市の補助事業として小口生活資金貸付事業を実施しました。

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
貸し付け件数	19 件	25 件	18 件

③生活困窮世帯支援事業

・食糧支援

一時的に残金や食糧がなく生活にお困りの方に対して、世帯人数に応じて食糧をお渡ししました。財源は、共同募金助成金によるものと、市民のみなさまからお米や食糧品のご寄付によるものです。複雑な社会環境や引きこもりの問題等により、今後も増加が予想されます。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、休業や就職先が見つからず、貧困に陥る方も増えることが予測されます。

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
支援世帯	46 世帯	56 世帯	55 世帯

④暮らしづらさを抱えた人の居場所づくり事業

地域でのつながりを失い孤立状態にある人や、引きこもりの人が社会と接点を持つ最初の一步として、暮らしづらさを抱えた人の居場所づくり事業『ねこの手』を平成 29 年度に開始し、3 年間で通算 3 名の参加者、7 名の見学者がありました。その中から、今年度はデイサービスでの有償ボランティアや、作業所に移行した方もいます。また、外出が困難な引きこもりの方には自宅で作業していただき、社会とつながる第 1 歩としての役割を担っています。今後も「地域とつながる作業を通じた居場所」として、市民共生社会の実現を目指しています。



ひまわり館 2 階ボランティアルームで毎週火曜日 10:00~12:00 にローソクの仕分けや封

簡詰め等の作業を行っています。

<令和元年度実績>

実施回数	延べ利用者数	延べボランティア数	自宅等での延べ利用者数
39回	251名	147名	6名

⑤就労準備支援事業（市委託事業）

生活困窮者自立支援法に基づき、自立支援相談窓口（市援護課）で相談を受け、就労に向けて、支援が必要とされた人を対象に、地域活動や就労体験をしながら就職準備のため支援活動を行い、有償ボランティアや就労につなげることができた。

- ・令和元年度 実人数 4名
- ・社会自立支援 4件（居場所づくり、地域活動） ・就労自立支援 124件（職場体験）

（2）地域福祉権利擁護事業

①地域福祉権利擁護事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等で判断能力が不十分な方が、安心して地域で生活ができるよう、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、書類預かり等を行う事業を実施しました。行政や地域の包括支援センター、障がい者支援センターからの相談から契約にいたるケースが多くありました。また、成年後見制度の利用がふさわしい方には、積極的に成年後見人に引き継ぐということを視野に入れながら支援しました。

	認知症高齢者等	知的障がい者	精神障がい者	その他
相談援助件数	1,027件	836件	977件	0件
新規契約件数	6件	4件	2件	0件
年度契約件数	25件	25件	35件	0件

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
契約件数	85件	92件	88件

（3）在宅福祉サービス等の実施

①介護保険事業

【居宅介護支援事業】

主任介護支援専門員2名を含む5名体制で業務を実施しましたが、利用件数を減らす結果となりました。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
要支援	119件	105件	97件
要介護	1,589件	1,686件	1,828件
合計	1,708件	1,791件	1,925件

【通所介護事業】

高齢者人口は増加傾向にあるものの、利用者数および延べ利用回数を減らす結果となりました。

・デイサービスセンターひまわり

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
要支援	0件	0件	68件
要介護	6,614件	7,127件	7,213件
合計	6,614件	7,127件	7,281件

・デイサービスセンターきらめきあづち

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
要支援	0件	0件	12件
要介護	5,469件	5,741件	7,074件
合計	5,469件	5,741件	7,086件

【訪問介護事業】

・ヘルパーステーションあづち

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
延べ件数	8,973件	8,098件	8,856件

② 障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービス事業

〈評価と方向性〉

障がい福祉サービスについては、事業規模は小さいながらも契約件数が増加傾向にあり、今後も事業強化を図って参ります。

【介護給付事業】

・居宅介護事業所

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
延べ件数	1,609件	1,518件	1,208件

・ガイドヘルプひまわり

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
居宅介護	128件	124件	138件
同行援護	138件	223件	201件
合計	266件	347件	339件

【計画相談支援事業】

・相談支援事業所

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
障がい児	269件	275件	306件
障がい者	627件	564件	554件
合計	896件	839件	860件

③高齢者支援サービスに関する事業

〈評価と方向性〉

介護保険の対象とならないサービスのため、利用者からのニーズが高く、引き続き事業を実施していきます。

【福祉輸送事業】

公共交通機関の利用困難な要介護高齢者を対象に通院の送迎を行いました。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
延べ件数	200件	290件	205件

【生活支援事業】

独自事業として、公的サービスでは対応できない一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象に、通院介助や入院時の洗濯などのサービスを引き続き実施していきます。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
延べ件数	562件	801	92件

【備品貸出事業】

- ・車椅子の貸出

他制度・他施策で貸与や支給が受けられない方を対象に車椅子の貸し出しを行いました。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
件数	342件	347件	298件

④障がい者支援事業

〈評価と方向性〉

地域との連携や手話通訳の派遣など本会の強みを活かした障がい者支援事業を実施しました。相談支援機関や障がい福祉サービス事業所と連携しながら実施していきます。

【手話通訳事業】

聴覚障がい者のコミュニケーション支援のため、手話通訳サービスを実施しました。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
日野町	156件	81件	94件
竜王町	41件	118件	191件
合計	197件	199件	285件

(4) 地域福祉推進のための財源確保と共同募金運動の活性化

①会費の募集

賛助会費の募集について、役員および職員で取り組みました。

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
--	-------	--------	--------

一般会費	7,004,660 円	6,595,280 円	6,595,280 円
賛助会費	77,000 円	534,000 円	464,910 円

②善意銀行

広報等によりご寄付の紹介を行いました。

今後使い道についても、見える化を図り、ご寄付いただけるよう努めて行きます。

③近江八幡市共同募金委員会

共同募金、日本赤十字社社資募集について、自治会、団体および事業所等の協力を得て実施しました。

赤い羽根共同募金運動は、「自分のまちをよくするしくみ」として、制度のすきまの課題に対応する地域福祉活動を推進する運動として、多くの地域住民の皆様にご理解とご協力をいただき取り組みを進めました。市社協への助成を通じて引きこもりがちな方の中間的な居場所づくりや生活支援活動に向けた座談会の開催や、見守り支えあい活動助成やボランティアグループ助成など自治会やボランティアグループへの助成を行い、安心して暮らせる身近な地域のセーフティネット作りに向けた新たな取り組みを支援しました。

歳末たすけあい募金の助成については、学区（地区）社会福祉協議会や当事者団体などが実施する支援活動等に助成しました。また、住民同士の支えあいによる新たな生活支援の取り組みを応援していくために、移動外出支援車両の貸し出しや、学区助けあいサポートセンターの体制づくりに向けた赤い羽根共同募金テーマ型募金「近江八幡くらし支えあい応援募金」に取り組みました。また、子ども食堂の取り組みを応援するため「子どもの居場所応援募金」を新に取り組みました。

共同募金委員会事務局として、共同募金の事務や啓発活動を行いました。

・赤い羽根共同募金

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
赤い羽根共同募金	6,447,627 円	5,710,373 円	6,195,442 円
歳末たすけあい募金	4,542,793 円	4,047,256 円	4,488,912 円
くらし支えあい応援募金	34,016 円	46,174 円	71,000 円
子どもの居場所応援募金	10,840 円	11,150 円	—

・助成

助成においては、審査委員会を設置し、公正な助成を行っています。

〔一般募金助成事業〕

高齢者福祉活動費	学区（地区）社会福祉協議会の高齢者福祉事業へ助成
福祉活動対策費	市社協活動〔広報紙、生活困窮世帯、暮らしづらさを抱えた方の中間的居場所づくり、災害ボランティア体制づくり、生活支援の仕組みづくり〕 子ども体験活動型福祉活動推進校助成〔1校〕 見守り支えあい活動助成〔自治会 15 団体〕 ボランティアグループ助成〔23 団体〕

	介護予防活動助成〔7 自治会〕 学区生活支援活動助成助成〔2 学区〕新 学区命のバトン推進助成〔3 学区〕新
--	--

〔歳末たすけあい助成事業〕

歳末助成金	各学区（地区）社会福祉協議会活動〔見守り訪問活動、配食、ふれあい交流活動等〕 当事者団体等への助成〔8 団体〕
-------	--

・災害援護活動

火災見舞金：2 件

④日本赤十字社滋賀県支部近江八幡市地区

日本赤十字社に協力し、活動資金である社資募集を行いました。

・日本赤十字社社資募集

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
一般社資（個人）	5,673,152 円	4,186,662 円	4,734,811 円
特別社資（法人）	804,488 円	781,000 円	837,500 円

・災害援護活動

火災見舞金：2 件

⑤令和元年台風19号災害支援街頭募金活動

令和元年10月18日（金）、21日（月）18：00～19：00

近江八幡駅周辺 職員有志 計 75,891 円

（5）施設・事業所などと連携し、地域福祉活動を推進

①施設・事業所と地域福祉活動との連携

・地域包括支援センターなどの関係機関に、見守り支えあいのまちづくり一覧表を配布しました。また、居宅介護支援事業所で地域福祉活動についての説明を行いました。

・高齢者福祉施設に小学校における福祉教育や、居宅介護支援事業と地域の見守り支えあい活動との連携などをつなぐ取り組みを行いました。今後も、こうした事例について周知を図りながら、連携促進を図りたいと考えています。

（6）市社会福祉協議会の基盤強化

〈評価と今後の方向性〉

社会福祉法人において経営組織のガバナンスの強化および事業運営の透明性の向上、財務規律の強化等を行い、透明性のある組織運営を行っていくため役員が参画した事業戦略や組織、経営基盤の安定確保を図る必要があります。

① 会務の運営

【理事会】

本会の業務執行の決定・理事の職務執行の監督等のため、理事会を開催しました。

開催日	議事内容
4月11日	共同募金、日赤会費の不明金発生事案に関する事 第1号議案 共同募金および日赤会費の不明金について、被害届を提出することについて 第2号議案 第1回評議員会（臨時会）の開催について
6月10日	第3号議案 平成30年度事業報告について 第4号議案 平成30年度決算について 監査報告 第5号議案 次期役員（理事・監事）候補者の選任について 第6号議案 評議員（欠員補充）候補者の選任について 第7号議案 施設長の選任について 第8号議案 令和元年度第2回評議員会の開催について
7月5日	第9号議案 会長、副会長および常務理事の選定について
8月13日	第10号議案 平成30年度共同募金、日本赤十字社会費不明金相当額の滋賀県共同募金会、日本赤十字社滋賀県支部へ送金することについて 第11号議案 令和元年度第1次補正予算案について 第12号議案 令和元年度第3回評議員会の開催について
11月22日	社会福祉法第45条の16第3項に基づき理事長および常務理事職務執行状況の報告と社会福祉法人指導監査（実地検査）がありましたので、指摘事項の報告と改善説明報告を行うこととした。その他、報告が必要と考える事項について報告を行った。
2月10日	社会福祉法第45条の16第3項に基づき理事長および常務理事職務執行状況の報告を行いました。共同募金等不明金事案について、経過、再発防止策などの説明から、審議を行いました。その他、報告が必要と考える事項について報告を行った。
3月16日	第13号議案 平成31年度第2次補正予算（案）について 第14号議案 令和2年度事業計画（案）について 第15号議案 令和2年度収支予算（案）について 第16号議案 令和元年度第4回評議員会の開催（案）について

【評議員会】

本会事業の運営を監督するとともに重要事項の決定のため、評議員会を開催しました。

開催日	議事内容
4月12日	第1号議案 共同募金および日赤会費の不明金について、被害届を提出することについて
6月21日	第2号議案 平成30年度事業報告について 第3号議案 平成30年度決算について 監査報告

	第4号議案 理事・監事の選任について
8月23日	第5号議案 共同募金、日本赤十字社会費不明金相当額を滋賀県共同募金会、日本赤十字社滋賀県支部へ送金することについて 第6号議案 第1次補正予算について
3月27日	第5号議案 平成31年第2次補正予算（案）について 第6号議案 令和2年度事業計画（案）について 第7号議案 令和2年度収支予算（案）について

【監査】

職務執行・会計の監査のため、監査を実施しました。

開催日	内容
5月29日	平成30年度の事業報告および決算の監査

顧問税理士による定期監査を毎月1回定期的に受け、会計事務の透明性、正確性を図りました。

【評議員選任解任委員会】

評議員の補充選任のため評議員選任解任委員会を設置しました。

開催日	内容
7月12日	評議員候補者の選任

② 基盤強化

【第2次地域福祉活動計画推進3か年アクションプランの推進】

第2次地域福祉活動計画（平成29年度～平成33年度）「地域福祉活動宣言：私たちは、見守り守られることが実感できるつながりのあるまち近江八幡を目指します。」の推進を目指して、平成29年10月から平成32年9月までの3か年アクションプラン（生活支援活動強化方針）を策定し、3か年の到達目標を①自治会単位の見守り支えあい推進組織を70か所へ（現在約40か所）、②学区単位の居場所を10学区へ（現在9学区）、③学区たすけあいサポートセンターを10か所へ（現在1学区）として取り組みを推進しています。

令和元年度の成果

- ①自治会単位の見守り支えあい推進組織 新規15か所
- ②学区単位の居場所 新規1か所
- ③学区たすけあいサポートセンター（生活支援グループ） 新規1か所

【地域福祉推進事務局会議の開催】

地域福祉活動を推進していくうえで、行政との連携は欠かせないものであり、地域福祉計画と地域福祉活動計画の推進状況や課題を確認しながら、取り組みを進めました。参加者：市福祉政策課職員、市社会福祉協議会職員

【再発防止検討委員会】

平成30年度に共同募金の一般募金と歳末たすけあい募金および日本赤十字社会費が入金していない不祥事故の信頼回復に努めるため、「近江八幡市社会福祉協議会再発防止検討委員会」を設置し、再発防止のための効果的な対応策を「再発防止検討報告書」として取りまとめを行いました。

日付	内容
令和元年11月18日	・委員会スケジュール（案）について ・再発防止に向けた現状の取り組みについて ・再発防止に向けたこれからの取り組みについて
令和元年12月16日	・再発防止検討報告書（案）について ・金銭取扱事務の管理適正化方針（案）について
令和2年1月31日	・再発防止検討報告書（案）について ・金銭取扱事務の管理適正化方針（案）について

③ 苦情解決の実施

社会福祉協議会が実施するサービスの苦情解決を図るため、毎月1回職員による会議を開催しました。

① 相談（苦情）件数および事故件数

	令和元年度	H30年度	H29年度
福祉サービスに対する相談（苦情）	4件	5件	5件
福祉サービスにおける事故	14件	15件	24件
地域福祉活動に対する相談（苦情）	0件	2件	0件
地域福祉活動における事故	0件	0件	0件
施設管理業務に対する相談（苦情）	0件	0件	0件
施設管理における事故	0件	0件	0件
その他	2件	2件	3件
合計	20件	24件	32件

④ 施設運営管理

総合福祉センターの一部業務（貸館業務）の委託により実施しました。

	令和元年度	H30年度	H29年度
貸館合計	863件	919.5件	969.5件
市関係	431（49.5%）	425（46.2%）	479（49.4%）
福祉団体等	402（46.6%）	482（52.4%）	454（46.8%）
社会福祉協議会	30（3.4%）	12.5（1.3%）	36.5（3.7%）